

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                     |            |            |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号   | 0992500074          |            |            |
| 法人名     | 特定非営利活動法人 フロレンス那須   |            |            |
| 事業所名    | 認知症高齢者グループホーム ソフィア  |            |            |
| 所在地     | 栃木県那須郡那須町大字寺子丙104-3 |            |            |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月25日          | 評価結果市町村受理日 | 平成25年5月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 |  |  |
| 所在地   | 栃木県宇都宮市若草1-10-6  |  |  |
| 訪問調査日 | 平成25年3月21日       |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型グループホームとして、地域密着という事で近くの中学校と関わりをもったり、地元のボランティアグループを多数受け入れ、利用者が多くの住民と交流を持てるように力を注いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を田畑に囲まれ自然豊かな場所に位置し、近くに住宅や中学校があり登下校時には生徒達の姿を目にすることが出来る。建物は南向き平屋建てで陽当たりが良く、中央のスタッフルームを挟んでオレンジ色のびわ棟、グリーン色のゆず棟が左右に色で分けられている。仕切りのない2つのユニットは自由に行き来でき歌声や体操などの様子が伺える。室内には高機能加湿空気清浄機が設置され感染防止にも細心の注意を払っている。スキンケア類も利用者それぞれに管理されるなど女性管理者の細やかな心使いが感じられる。食べることを大切に考えその日の献立について話題にし職員手作りの食事を提供している。また、利用者一人ひとりにアルバムが作られて行事や日常の様子を家族が見られるようになっており喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 朝の申し送り時に理念を唱和し、また常に見えるところに理念を掲示していることで、職員全員が理念を共有し実践につなげている。     | 法人共通の理念を掲示し毎朝唱和している。事業所独自では言葉使いを大切にすることを理念に掲げ、利用者一人ひとりに合わせた親しみのある言葉づかいをしている。敬語ではなく丁寧語を心がけて時には方言も交えて話しかけている。                 |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 地域の行事に参加し、交流できるように支援している。また、近隣の方々が農作物を持ってきて下さったり、お茶を飲んでいかれりしている。 | 近隣の方はホーム主催の落語会に参加したり、野菜・米・花などの差し入れをしてくれる。散歩の際にあいさつを交わし、お茶を飲みに来ることもある。また近隣の中学生の職業体験学習の受入れをしており、その後も遊びに来たりと地域交流が日常的に行われている。   |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 認知症サポーター養成講座などを開き、認知症の理解、支援の方法などを地域の人々に向けて活かしている。                |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 行政、民生委員、地域住民などの外部からの貴重な意見をサービスの向上に活かしている。                        | 行政職員・民生委員・利用者家族・地域の方が出席して2ヶ月に1回開催されている。利用者家族と地域の方は交代で出席している。地域の方は事前に感染症や防災などの知識を取り入れ話題を準備するなど、熱心に取り組んでいただけており、多種多様な意見が出される。 |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 町の介護保険係や地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、積極的に情報交換をしながら協力関係を築くように取り組んでいる。   | 運営推進会議への出席等を通して、事業所をよく理解してもらっていて協力関係が出来ている。情報があればメールをもらったり、窓口に出向いた際に積極的に意見・情報交換を行っている。                                      |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職場内研修を設け、職員一人ひとりが拘束をしないケアについて確認し、真剣に取り組んでいる。                     | 身体拘束に関しては総括部長が研修会などで指導している。外に出てしまう利用者の方には付き添いながら原因を探り拘束をしない支援に努めている。精神的な拘束も含め職員同士は常に注意しあっている。防犯上、午後4時に玄関は施錠している。            |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 職場内研修を設け、いかなる場合も虐待はいけないことを、職員に徹底し、虐待のない事業所として取り組んでいる。            |   |                   |

認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 職場内研修を通じ、全職員が学べる機会が持てるよう取り組んでいる。                      |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約前に重要事項説明書の説明を丁寧に行い、十分に納得いただいてから契約に至るよう取り組んでいる。      |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議において、利用者様の家族に意見を頂き参考にさせていただいている。                | 家族の方々には運営推進会議時や支払い時に雑談をしながら意見や要望を聞いている。要望よりも感謝の言葉をたくさん頂いている。                                 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 日頃から意見交換などをし、また毎月の職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映させている。        | 職員は毎月の職員会議や係ごとの会議などで意見を出している。また日々のケアの中で日常的に気がついたことを随時伝えている。管理者は出された提案を実践し良かったことは積極的に取り入れている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 月一回の定例会議により、個々の職員の意見交換をすることで、向上心を持てるような環境づくりに取り組んでいる。 |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 職員の資格取得などの支援をしている。また、OJT、Off-JT等研修を受ける機会をできる限り確保している。 |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 那須町の特別養護老人ホームやデイサービス事業所などと徐々に交流が増えてきている。              |  |                   |

認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって本人の思いを理解し、安心できるような信頼関係が築けるように取り組んでいる。 |   |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって家族の思いを理解し、不安を感じさせないよう取り組んでいる。         |   |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | サービスを導入する段階で、しっかりとアセスメントし、何がまず必要かを見極め、対応に取り組んでいる。                    |   |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 職員は本人のできる事、できない事を把握し、暮らしを共にする者として、できる限り協力して行っている。                    |   |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 職員は本人を支えていく上で、職員、本人、家族の絆を大切にしながら、家族と共に同じ思いで取り組んでいる。                  |   |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 家族や友人などの面会の度、一緒に写真を撮りアルバムに収め、いつでも見られるように取り組んでいる。                     | リビングには来客がゆっくり出来るソファとテーブルが用意され家族や友人は気兼ねなくおしゃべりを楽しんでいる。希望があれば馴染みの場所に立ち寄りながらドライブを楽しむこともある。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 日中はできるだけフロアで過ごして頂き、利用者様同士が関わり合い、関係を深められるよう取り組んでいる。                   |   |                   |

認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 利用が終了した方との関係性も大切にし、必要に応じて相談や支援も行えるように取り組んでいる。       |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日頃からコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。         | 何気ない会話や1対1の入浴介助時に表情・しぐさ・言葉から思いの把握に努めている。情報は記録し職員で共有している。職員は希望に沿って支援出来たときの利用者の笑顔が喜びになっている。             |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入所時や家族が来所された時に、これまでの生活歴や生活環境を聞き把握に取り組んでいる。          |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 全職員が一人ひとりの利用者様の現状が把握できるように情報共有のしくみを実践している。          |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の面会時に意見を聞いたり、月1回の職員会議での意見を参考にしながら介護計画を作成している。     | 職員は担当を決めず全員ですべての利用者をモニタリングしている。全員分の記録をもとに月に一度の職員会議で話し合いをしている。介護計画の見直しは6ヶ月もしくは3ヶ月ごととし急な変化がある時は随時行っている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 様々な種類の個別記録をもとに、日々の様子や、気づきを介護計画の見直しに十分活かしている。        |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 事業所の作った枠組みにとらわれず、臨機応変に、ご本人に最適なサービスが提供できるように取り組んでいる。 |   |                   |

認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |   |
|----|------|---|--|---|---|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 町主催のイベントを中心に、積極的に地域資源を利用し、楽しい生活が送れるように支援している。                      |   |   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 受診は原則として本人及び家族の希望を尊重し、事業所としてその医療機関と信頼関係を築きながら支援している。               | かかりつけ医への通院介助は家族の付添いが基本だが職員が同行する場合もある。常に職員は利用者の体調を細かく観察し、気付いたことは家族に伝え情報の共有をしている。                                     |   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 常に利用者様の身体状況を確認し、変化があった際はすぐに看護職に報告し、早めの対応に取り組んでいる。                  |   |   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時の同行、入院中の面会、家族との連絡を密にとりあい、直接医者より話を伺ったり、情報交換をしてより良い関係作りに取り組んでいる。 |   |   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入院先の医療チーム、当ホームの協力医療機関、ご家族様とよく協議し、話し合いを重ね、良好な関係を構築している。             | 重度化や終末期の対応については入居時に説明をしている。24時間体制で往診が可能な協力医と連携が出来ている。状況に応じて老人保健施設や特別養護老人ホームを紹介することも出来る。                             |   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急対応マニュアルに沿って実践できるようにし、定期的に研修を行い職員一人ひとりの技術を身につけていけるよう取り組んでいる。      |   |   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年2回の防災訓練を行っている他に、夜勤者2名での模擬訓練を毎月行い、消防署や近隣との協力のもと、万が一の災害に備えている。      | 消防署立会いのもと年2回の防災訓練と毎月の夜間の模擬訓練が行われている。防災訓練では近隣住民が自然に集まるなど関心を持ってきている。夜間の模擬訓練は全職員が夜勤時に実施している。備蓄は食料や石油ストーブは法人で備蓄・保管してある。 | すでに近隣住民と協力関係が出来ているので、災害時に非難した利用者とな手を繋いで待ってもらうなど具体的な役割の協力依頼に期待したい。 |

認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 今までの生活環境をよく把握し、言葉遣いなどに気を付け、人格の尊重を優先に生活援助に取り組んでいる。        | 人生の先輩として丁寧な言葉かけを心がけている。一人ひとりの出身や今までの職業などを踏まえて失礼が無いように、また、方言を交えながら親しみを込めて対応をしている。  |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日常生活の中で常に利用者様の意思表示を促す声かけをし、自己決定ができるように取り組んでいる。           |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 事業所の都合を優先することなく、その人らしさにこだわり、個々のペースに合わせた生活を支援している。        |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | その日の気分や季節、天気によってお勧めしたり、本人の希望にあわせて支援している。                 |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 毎食メニューを公表し、それを話題にしたリ、できる範囲で調理、片付け等の手伝いをして頂き、楽しみながら行っている。 | 可能な方はテーブル拭きや配膳、エプロンをして調理の手伝いをしている。利用者のリクエストにも考慮した献立を、食事の前に職員と利用者で読み上げ、食事を楽しむ工夫をしている。職員は同じテーブルで会話をしながら一緒に食事をしている。少人数で外食に行くこともある。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 利用者様の食事や水分の摂取量を記録し、変化があればすぐに話し合いを持ち、常に栄養や水分の摂取に気を配っている。  |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 口腔ケアの重要性を理解し、必ず仕上げは職員がお手伝いをさせて頂き、清潔保持できるように支援している。       |   |                   |

認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 1人ひとりの排泄パターンを常に把握できるように排泄チェック表をつけ、トイレでの排泄ができるように支援している。    | 排泄チェック表や水分摂取量を参考にしながら、さりげなく声をかけトイレに誘導している。自立にむけた支援を行い、入居後リハビリパンツから布パンツになった方もいる。   |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 食事の内容、運動などを考え、そして毎日手作りのヨーグルトを摂取することで、極力薬に頼らないように取り組んでいる。   |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | なるべく、事業所側の都合と利用者様の希望が合うように時間帯を調整し、より楽しく快適に入浴できるような支援をしている。 | 入浴は1日置きで午後の時間帯としているが希望があればいつでも入れる。拒否時にも声かけや対応を工夫し気持ちよく入浴してもらっている。ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんだり敏感肌の方に合わせた入浴剤やシャンプーなどを使用している。スキンケア類・ヘアブラシ等は一人ずつカゴに入れ衛生的である。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中の休息や夜の睡眠に対して、個々の生活のリズムを尊重し、その方に合った休息が取れるように支援している。       |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 個々の薬の内容が確認できるようになっており、職員一人一人が把握し適切な服薬支援をしている。              |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 個々に合った役割や楽しみを持っていただき、張りのある生活が送れるように支援している。                 |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 活動予定以外にも天気の良い日など外出する機会を多く設け、気分転換ができるように支援している。             | グループに分けてお花見やテーマパークへ日帰りで出かけ、日用品やおやつの買い物にも日常的に外出している。ファーストフードでコーヒーを飲むなど利用者の笑顔が見られる場所にはよく出かけている。広いテラスでの日光浴も楽しみの一つとなっている。                       |                   |



認知症高齢者グループホームソフィア

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 個人でお金を所持し、買い物をする事は殆どないが、お金を所持している事で不安を解消できる方は、少しだけ所持していただき対応している。    |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人の希望にそって電話の支援をしたり便せんや封筒を用意し、やり取りができるよう支援している。                       |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 明るく開放感のある空間になっており、季節感やその時期の行事などが感じられる物を飾るなど工夫している。                   | リビングは陽当たりが良く明るく広々としている。対面キッチンから職員が調理する音や2つのユニットから聞こえる歌声などが活気のある雰囲気を出している。リビング内にある洗面コーナーは洗面台が車椅子のまま使用できる高さになっている。花や行事の飾りから季節が感じられる。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるような居場所の工夫をしている   | 独りになれたり、気の合った利用者様同士で過ごせることはもちろん、ユニット間の隔たりを無くすことで、より自由に過ごせるように工夫している。 |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 家で使い慣れた物を自由に持ち込み、利用者様が居心地良く過ごせるよう工夫している。                             | ベットや筆筒をそれぞれ持ち込み、写真や小物など馴染みの物が置かれ居心地の良い居室作りがされている。清掃が行き届いており清潔な部屋になっている。  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 利用者一人ひとりの持っている力に合わせ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような環境を作っている。                  |  |                   |